

第 1 学年生活科学習指導案

1. 単元名 「おもりでうごくおもちゃを つくってあそぼう」

2. 指導観

- 本単元は、身近にある物を使っておもりで動くおもちゃを作って遊んだり、作り直したりすることを通して、おもりで動くおもちゃのおもしろさを味わい、科学的な見方や考え方の基礎を培うことが主なねらいである。

ここでは、おもちゃを作ったり、おもちゃで遊んだり、くり返し活動できるような教材を用いることで、どの子も思いや願いをもち、それを実現しようと意欲的に活動することができる。共通体験として取り入れるやじろべえは、ゆらゆらとゆっくり揺れ、落ちそうで落ちないおもしろさや指に乗せて何度でも遊べるため、くり返すことが好きな1年生の子どもたちの実態にあっている。次の単元「とびだせあそびたい秋」で、秋の素材を使っておもちゃ作りをする時にも、本単元での経験が生かされるものとする。やじろべえは仕組みを目で見てうでの長さやおもりの重さなどを直観的に特徴付けたり、また指に乗せて体感して特徴付けたりできる。左右のおもりを比べたり、友達のものや比べたり、工夫する前と後を比べたりすることができる。このように意欲的に作って遊ぶ、作り直すというくり返し活動することは科学的な思考や認識の基礎を育てる上で価値がある。

また、おもりで動くおもちゃを作る活動を通して、身近な物を使っておもちゃができることを知ることや、友達と一緒に遊び一緒に工夫する楽しさを味わうことは、今後の子どもたちの生活を豊かにすることができる。さらに、活動を通して友達と仲良く遊ぶことや遊びに使う用具を上手に使えるようになることは、自立への基礎を培う上で意義がある。と考える。

- 本学年の子どもたちは1学期の生活科「あさがおぐんぐんそだて」の学習で、友達のものや自分のものを比べて、花や葉の数の違いに気付いたり、昨日と今日とを比べて、つぼみの変化に気付いたり、上と下を比べて下の方から先に花や種ができたことに気付いたり変化や成長の様子に関心をもって観察することができるようになってきている。しかし、植物への興味・関心には差があり、自分で意欲的に活動を続けられる子は70%程度であり、その他の子どもは教師の声かけなどの支援を必要としていた。

アンケートによると、おもりで動くおもちゃで遊んだことがある子は少ない。そのうち、やじろべえで遊んだことがある子、作ったことがある子は10.5%であった。つり合うには左右の重さが同じであることやうでの長さが同じであることが分かると思われる子が78%である。そのうち84%の子は、遊んだことも作ったこともない子である。これは、シーソーで遊んだときに重い方が下がる、後ろに乗った方が下がるという経験から推測したものと思われる。また、やじろべえで遊んだことがある子どものうち75%は、つり合うためにはうでの長さが同じであることに気付いていないと思われる。

- 本単元では、やじろべえで遊んだり作ったりする際に、左右を比べたり、友達のものや比べたり、工夫する前と後を比べたりする活動を通して、やじろべえはうでの長さやおもりのバランスによって動き方が変わることや気付く、おもりで動くおもちゃの動きのおもしろさを味わい、遊びを工夫して楽しむことができるようにしたい。

そのために、第1次で自分でやじろべえを作る活動を取り入れたい。初めに教師がやじろべえを提示して遊んでみせることにより、「おもしろそう！やってみよう」という意欲を喚起したい。その際、提示するやじろべえは、仕組みが見えやすく子どもたちにとって身近で扱いやすい竹ひごと油粘土、爪楊枝で作られた物を使いたい。やじろべえの作り方は教師のやじろべえを見ながら、大型模型を使って考えさせ、見通しをもって作る活動に取り組ませたい。うまくやじろべえを作れた子どもが出てきたら「どうしたらうまくできたの」と問い返し、左右を比べたり教師のやじろべえと比べたりして作ったという意見を取り上げ、価値付けていきたい。また、つり

合わなくて困っている子にはどうしたらうまく立つかアドバイスをもらえるようにしたい。その後、つり合わないやじろべえの左右のおもりの重さを比べたり、うでの付け方を比べたり、つり合っているやじろべえと比べたりしている活動を教師が価値付けながら作って遊ぶ活動をするようにする。そして、やじろべえはおもりの重さが違ったりつり合わないが、おもりの重さを左右で同じにするとつり合うこと、うでを左右対称に付けているとつり合うことなどに気付かせたい。左右を比べたり、友達と比べたりと比べる活動によって気づきが得られた時には、「くらべるマーク」を、やじろべえのつり合いとおもりの重さやうでの長さの関係付けによって実感を伴った気づきが得られた時には「こうしたらこうなるマーク」を黒板に貼り、価値付けをしていく。

第2次では、長い竹ひごを使ってやじろべえを作って遊ぶ活動を行いたい。初めに第1次をふり返り、重さやうでのつけ方など子どもたちから出た気づきや、作る時は左右で比べてみるのが大切であること想起させる。そして、教師が長い竹ひごを使って作ったやじろべえを見せ、「この前よりもおもしろそうだ。やってみよう」という意欲を喚起し、「ながいたけひごをつかっとうまくたつやじろべえをつくろう」というめあてを持たせる。やじろべえを作って遊ぶ活動は、比べたり教え合ったりできるようにグループで行うようにする。さらに、長い竹ひごでつり合うやじろべえができた子どもには、どうしたらうまくつり合ったのかを問い返しその活動への価値付けをしていく。また、できあがった子にはうでの長さが違うやじろべえを提示し、うでの長さが違うやじろべえをつり合わせるために左右のバランスを考えて作る物にもチャレンジさせたい。そしてふり返り際には比べたり、関係付けたりすることの大切さを感じ取らせるために、やじろべえ作りの中で気付いたことを問い返し「くらべたよマーク」や「こうしたらこうなるマーク」で価値付けるようにしていく。

第3次では、おもりで動く様々なおもちゃの中から作りたい物を選んで作らせたい。その際、やじろべえで遊んだり、やじろべえを作ったりする活動の中で学んだおもりのバランスを生かせるまわるやじろべえ、つなわたりやじろべえ、一本うでのやじろべえ、おきあがりこぼし、シーソーなどを参考作品として提示したい。これらは1年生の子どもたちが自分で作れたという達成感、満足感を味わうことができるように作りが簡単なものである。さらに、作ったおもちゃで友だちと遊ぶことにより、動きを工夫して作るという活動へと継続し、自分の生活へとつなげていけるようにしたい。

3. 単元の目標

○ 生活についての関心・意欲・態度

- ・友だちと仲良く、おもりで動くおもちゃで遊んだり、おもちゃを作ったりすることができる。
- ・身の回りの材料を使って、おもりで動くおもちゃを最後まで作ることができる。

○ 活動や体験についての思考・表現

- ・おもりで動くおもちゃで遊んだりおもちゃを作ったりする中で、友達と比べたり、作り直す前と後を比べたりすることができる。
- ・おもりで動くおもちゃのおもりの重さと動きを関係づけて考え、工夫して作ることができる。

○ 身近な環境や自分への気づき

- ・遊んだり、作り直したりすることを通して、やじろべえはおもりやうでのバランスが大切であることに気付くことができる。
- ・おもりで動くおもちゃ作りを通して、自分や友達のよさに気付くことができる。

4. 指導計画（全7時間）

次	主な学習活動と内容	教師の支援	時
<p>第一次 やじろべえを作ろう</p>	<p>1. やじろべえを作って遊ぶ。</p> <p>(1) 教師のやじろべえを見て，作り方を知る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">指の先に乗せると，ゆらゆらしておもしろいな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">ぼくも作ってみたいな。うまくできるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">うでが2本と粘土が3つと爪楊枝が1本あるんだな。</div> </div> <p>(2) やじろべえを作って遊ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">粘土に竹ひごを刺すのは，このくらいでいいかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">粘土を右と左を同じ大きさにしたら倒れなくなった。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">わたしのやじろべえは，鼻の上にもうまく乗ったよ。</div> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が作ったやじろべえで遊ぶ姿を見せ，作る意欲を持たせられるようにする。 ○ 楽しく作って遊べるように，1年生の子どもたちが扱いやすい竹串，油粘土，爪楊枝を用意する。 ○ 左右のおもりの重さを比べたり，友達と比べたりした時は「くらべたよマーク」で，どうしたらつり合うようになったのか問い返し，言えた時には「こうしたらこうなるマーク」を貼り，活動を価値付けるようにする。 ○ 自分ではどうやって作ったらいいか分からない子どもには，教師のやじろべえを見せたり，友達のやじろべえを見るようにアドバイスしたりする。 	<p>1 ○組 本時</p>
<p>第二次 うでの長いやじろべえに作り直そう</p>	<p>2. やじろべえを作り直して遊ぶ。</p> <p>(1) やじろべえがうまく立つ作り方を話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">うでは，下向きに斜めに刺した方が倒れなかったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">粘土の大きさは，右と左を同じにするとよかった。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">軸は，あまり長いと倒れやすいから，短くしたよ。</div> </div> <p>(2) やじろべえを作り直す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">先生みたいに，うでの長さを左右で変えてもうまくできるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">うでの長い方に傾いたよ。どうしたらうまく立つかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">粘土に刺す竹ひごはこのくらい下向きにするとうまく立つかな。</div> </div> <p>(3) できたやじろべえで工夫して遊ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">うまくつり合ったよ。もっと粘土を大きくしても作れるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">○○君，この細い枝にどちらが長く留まれるか，競争しよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">右に傾いているな。右の粘土を少し小さくしてみよう。</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時をふり返り，やじろべえの仕組みやつり合うやじろべえの作り方のコツを発表させる。 ○ 教師が長い竹ひごを使ったうでの長さの違うやじろべえを見せ，自分たちも作ってみたいという意欲を喚起する。 ○ 前時に作って遊んだやじろべえの材料の他に長い竹ひごを用意しうでの長さを工夫できるようにする。 ○ うでの長さが違ってもうまくつり合うやじろべえができた子を賞賛する。やじろべえをつり合わせるためにうでの長さとおもりの重さを左右比べたり，友達と比べたりした時は「くらべたよマーク」を貼り，どうしたらつり合うようになったのか問い返し，言えた時には「こうしたらこうなるマーク」を貼り，価値づけるようにする。 	<p>1 □組 本時</p>

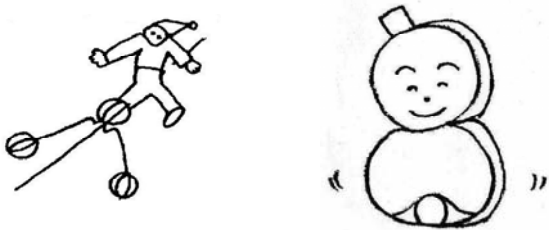
3. おもりで動くおもちゃを作って遊ぶ。

(1) 参考作品を見て、どんなおもちゃを作りたいか計画を立てる。

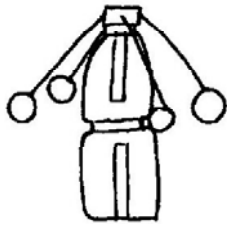
- ・シーソー
- ・一本うでのやじろべえ



- ・つなわたりやじろべえ
- ・おきあがりこぼし



- ・まわるやじろべえ



(2) 材料を考えて選び、おもちゃを作る。

つなわたりやじろべえは、この前と同じように、右と左のおもりの大きさを同じにしよう。

おきあがりこぼしは、おもしろい動きになるように、粘土を付ける場所を考えよう。

一本足のやじろべえは、2本足のよりも難しいな。針金の曲げ方を工夫してみよう。

(3) 作った物を見せ合って遊ぶ。

どちらが、長く倒れないか競争しよう。

この細い枝にも留まれるかチャレンジしてみよう。

おきあがりこぼしの重りの場所を変えると転がり方が変わっておもしろいよ。



- やじろべえと同じように、重りのつけ方によって、おもしろい動きをするおもちゃを紹介し、作ってみたいという意欲を喚起する。
- 提示するおもちゃは、達成感が味わえるように子どもたちが扱いやすい材料でできていて、仕組みが簡単な物にする。
- やじろべえを工夫して作りたい子には、それも認めるようにする。
- 子どもたちの意欲を大切にするために、材料を十分に用意しておく。

- 子どもたちのアイデアを認めながら、つり合わせるために必要な条件については、やじろべえ作りを思い出させるようにする。

- お互いのがんばったところやおもちゃのおもしろさを認め合えるようにする。

第 1 学年 生活科学習指導案

指導者 ○○ ○○

5. 本時 2 / 7 場所 オープンルーム

6. 本時の目標

- 長い竹ひごを使ってやじろべえがつり合うように、左右を比べたり、友達と比べたり、この前に作った時と比べたりしながら楽しく作って遊ぶことができる。

7. 本時の仮説

やじろべえの左右や友達のものや自分のものを比べたり、うでとおもりのバランスを関係付けたりして作っている活動を価値付ければ、子どもたちは長い竹ひごを使ってやじろべえがつり合うように工夫して楽しく遊ぶことができるであろう。

8. 本時指導の考え方

本学級の子どもたちは、前時にグループごとに油粘土と竹ひご、爪楊枝という簡単な仕組みのやじろべえを自分で作っている。そして、作ったやじろべえを指先などに乗せて遊び、うまくつり合ったやじろべえはゆらゆら揺れてもなかなか落ちない楽しさを味わっている。子どもたちは作ったり遊んだりする中で左右のうでとおもり、真ん中に重心が必要であるというやじろべえの作りを実感している。さらに、やじろべえがつり合わずに傾いたり、落ちてしまったりした時には、左右のうでを付ける角度を変えたり、おもりの重さを左右揃えたりして、つり合うように工夫して遊んでいる。また、前時学習のふり返りでは、左右を比べたり、友達のものや自分のものを比べたりすることの大切さや、やじろべえがつり合うためには、おもりの重さやうでの長さを左右揃えることと関係付けて作ることが大切であることを教師の価値付けによって学んでいる。

そこで、まず、前時にやじろべえを作ったこととその時にどんな気持ちであったかを想起させ、発表させる。その際、想起する手がかりになるように前時に作ったやじろべえと子どもの気付きをまとめたものを用意しておく。


次に、教師が長い竹ひごで作ったやじろべえを提示し、「前時のやじろべえよりおもしろそうだ」「自分も作ってみたい」という意欲を喚起したい。そして本時のめあて「ながいたけひごをつかって、うまくたつやじろべえをつくろう。」をつかませ、作って遊ぶ活動に取り組みせたい。その際、グループで活動させることにより友達のやじろべえと自分のやじろべえを比較できるようにしたい。作る材料は、竹ひご、油粘土、爪楊枝など1年生の子どもたちが扱いやすい材料である。また竹ひごは30～50 cm程度の物を自由に選んで使えるように用意しておきたい。長い竹ひごを使ったやじろべえができた子どもには、「どうしたらうまくできたの?」と問いかけ、「○○したらつり合った。」という子どもには、「○○するとつり合うんだね。」と認める声かけをし、その行動の価値付けをしたい。また、どのようにしたらつり合うのか分からず、活動が停滞している子どもには、黒板を見たり、友だちの物を見たりして比べることの大切さを思い出させるようにアドバイスしていくようにする。また、油粘土が柔らかくて崩れやすいためうまく作れない子には、ねんどをアルミホイルでくるむとよいことをアドバイスしていくようにする。さらに、長い竹ひごでやじろべえができた子には、左右のうでの長さが違うやじろべえを提示し、「うでの長さが違う時、どうやったらつり合うかな?」と左右のバランスを考えるような問題提起もしていきたい。

最後に、本時の学習をふり返って、ふり返りカードに記入した後、感想を話し合いたい。その中で、友達との比較や左右の比較など比べることができていた時には「くらべたよマーク」を、左右のうでの長さやおもりの重さのバランスとやじろべえがつり合うことを関係付けることができていた時は「こうしたらこうなるマーク」を黒板に貼って価値付けるようにしたい。また、教え合い、助け合いなどのよい学び方も紹介し認め合いたい。そして、おもりを使ったいろいろなおもちゃを見せ、次時には作る計画を立てることを知らせ、次時への意欲をつなぎたい。

9. 準備

第1次で使ったやじろべえ、くらべたよマーク、こうしたらこうなるマーク、やじろべえの模型、やじろべえの材料(竹ひご、油粘土、爪楊枝、スチロール板) ペンチ、セロハンテープ

10. 本時の展開 (2/7)

時	主な学習活動と内容	○教師の支援 ☆教材の工夫
5	<p>1. 前時をふり返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 前時にやじろべえを作って遊んだことを想起する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">やじろべえを作るのは難しかったけど作れたから嬉しかった。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">やじろべえを指に乗せるとゆらゆらして、おもしろかった。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">やじろべえの粘土を同じ大きさにしたら、うまく立って嬉しかった。</div> </div> <p>(2) 教師が長い竹ひごを使って作ったやじろべえを見せ、本時のめあてをつかむ。</p>  <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">先生のやじろべえは、うでがあんなに長いけどぼくにもできるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">うでが長くても左右同じ長さならうまく立つと思うよ。やってみよう。</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">ながいたけひごをつかって、うまくたつ やじろべえをつくろう。</div>	<p>○ 前時に遊んだやじろべえや子どもの気付きをまとめた物を用意しておき、前時を想起する手がかりになるようにする。</p> <p>○ 前時の活動で、楽しかったこと、嬉しかったこと、困ったことなどを発表させ、子どもたちの思いに共感するようにする。</p> <p>○ 35cmくらいの竹ひごで作ったやじろべえを提示し、やじろべえをさらに作り直してみることに意欲を持たせるようにする。</p> <p>○ 長い竹ひごを使うので、周りの安全に気をつけて作ったり遊んだりできるように指導する。</p>
10	<p>2. やじろべえを作って遊ぶ。</p> <p>(1) やじろべえを作って遊ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">長い竹ひごを2本使って、うでの長いやじろべえを作ってみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">長い竹ひごを粘土に刺すと、すぐに崩れるからどうしたらいいかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">長い竹ひごに粘土を付けると重いから小さい粘土球にしてみよう。</div> </div> <p>(2) 長い竹ひごを使ってやじろべえを作るコツを話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">うでが長いから、前より小さい粘土球にしたら落ちにくくなったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">この前のやじろべえより、うでを下ろしたら、倒れにくくなったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">机の上ではぶつかりやすいから、立って作った方がいいよ。</div> </div>	<p>○ 友達と比べ合えるように、グループで活動させるようにする。</p> <p>○ 竹ひごに粘土をうまく付けられない子には、粘土をアルミホイルでくるむとよいことをアドバイスする。</p> <p>☆ 比べることの大切さを感じ取らせるために、前と比べたり、左右を比べたりした発言が出た時には、「くらべたよマーク」を黒板に貼り、価値付けるようにする。</p> <p>○ 自分のやじろべえができた子には、うでの長さが違うやじろべえを提示し、さらに作ってみようという意欲を喚起する。</p>
42	<p>3. 本時学習をふり返り、次時学習について知る。</p> <p>(1) 本時学習の感想をふり返りカードに書き、発表し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">○○さんみたいにうでを下ろしたら上手に立って嬉しかったです。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">左右を同じにすれば、うでが長くても短くてもうまく作れました。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">うでの長さが違う時は粘土の大きさを変えたらうまく立ちました。</div> </div> <p>(2) 次時学習についての教師の話聞く。</p> <p>○ 次時は、どんなおもちゃを作りたいか計画を立てること</p>	<p>☆ 関係付けることの大切さを感じ取らせるために、つり合わせるためにどんな工夫をしたのかが言えた時には「こうしたらこうなるマーク」を黒板に貼り、価値付けるようにする。</p> <p>○ ねばり強くがんばったこと、友だちと教え合えたこと、仲良く遊べたことなど学び方や態度のよさも賞賛する。</p> <p>○ 次時の計画の時に見せる参考作品を見せ、次時への意欲をつなげるようにする。</p>

第 1 学年 生活科学学習指導案

指導者 ○○ ○○

5. 本時 1 / 7

場所 1年□組教室

6. 本時の目標

- やじろべえのおもりの重さを左右で比べたり、友達をやじろべえと比べたりして作って遊ぶことができる。

7. 本時の仮説

自分のやじろべえを作る際に左右のおもりの重さを比べたり、友達と比べたりする活動を価値付ければ、子どもたちは、やじろべえがつり合うように工夫して、楽しく遊ぶことができるであろう。

8. 本時指導 の考え方

本学級の子どもたちは、やじろべえで遊んだ経験がある子どもは8%しかいない。そこで本時では、教師が作ったやじろべえを紹介し、作って遊ぶ活動を楽しませたい。

まず、教師が作ったやじろべえのゆらゆら揺らしても倒れそうで倒れそうにない様子を見せ「自分もやってみたい。作ってみたい。」という本時学習への意欲をもたせたい。提示するやじろべえは、仕組みが見やすく、子どもたちにとって身近で扱いやすい竹ひごと粘土と爪楊枝で作った物である。

次に、やじろべえ作りの見通しをもたせるために、教師の作ったやじろべえをもとにやじろべえの仕組みを考えさせる。そして、材料をグループごとに配ってグループで一緒に活動させることにより、友達をやじろべえと自分のやじろべえを比較できるようにしたい。子ども同士で比べて作ったり遊んだりする中で、左右のおもりの重さや腕の傾きによってやじろべえがつり合ったり、つり合わなくなったりすることや動きが変わるおもしろさを味わわせたい。

自分が気付いたことを友達に言ったり友達から教えてもらったりすることで子ども同士のコミュニケーションが深まり、気付きも深まるものと考えられる。「うでを斜めにしたらうまくいったよ。」「○くんのようにしたらつり合った。」という子どもには、「○○したらつり合うんだね。」と認める声かけをし、その行動の価値付けをしたい。活動が停滞している子どもには教師の作った見本や友達の物を見るようにアドバイスしていきたい。

また、作ったり遊んだりしている途中で、できた子どものやじろべえを紹介する時間をとりたい。

どのようにしたらつり合ったかを問いかけ「おもりを同じくらいにしたらつり合った。」「このくらいに竹ひごをさしたらできた。」など言えた子どもには「こうしたらこうなるマーク」を黒板に貼って価値付けたい。また、「なかなかつり合わない」という子どもにどのようにしたらつり合うかアドバイスをしてもらい、やじろべえをつりあうコツをみんなに広げていきたい。そして さらに、作って遊ぶ時間をとるようにしたい。



最後に作って遊んで楽しかったことや気が付いたことを発表させたい。「おもりを小さくしたらつりあった」「右と左の粘土の大きさを同じにしたらつり合った」など作りかえる前後や左右を比べたりしている発言には、「くらべたよマーク」を「うでのつけ方を変えたらつり合った」など「こうしたらこうなった」など関係付けた発言をとり上げ「こうしたらこうなるマーク」を黒板に貼り価値付けていきたい。

さらに、次時では、長い竹ひごを見せ、自分も長い竹ひごを使ってやじろべえを作りたいという意欲につないでいきたい。

9. 準備

教師…やじろべえの材料（竹ひご、粘土、爪楊枝）、ふりかえりカード、くらべたよマーク
こうしたらこうなるマーク

10. 本時の展開 (1/7)

	主な学習活動と内容	○教師の支援 ☆教材の工夫
	<p>1. 教師の作ったやじろべえを見て、本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 教師の作ったやじろべえを見る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">やじろべえって、おもしろそう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">たおれそうでたおれないな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">ぼくもやってみよう。</div> </div>	<p>○ 教師の作ったやじろべえを用意しておき、作って遊びたいという意欲をもたせる。</p> <p>☆ 楽しく作って遊べるように、1年生の子どもたちが扱いやすい竹串、油粘土、爪楊枝を用意する。</p>
5	<p>(2) めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">やじろべえをつくってあそぼう</div> <p>2. グループごとにやじろべえを作って遊ぶ。</p> <p>(1) やじろべえを作って遊ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">指の先でゆらゆらしておもしろいよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">何度やってもこのやじろべえは、すぐ落ちるよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">このやじろべえは、こんな細いところにつよ。</div> </div>	<p>○ 友達と比べ合えるように、グループで活動させるようにする。</p> <p>○ 意欲を高めるためにおもりの重さを変えたりうでの付け方を考えながら遊んでいる子どもを賞賛する。</p> <p>○ なかなかできない子どもには、仕組みが理解できるように教師の作ったやじろべえを見せたり、できた子どものやじろべえを見せたりする。</p>
20	<p>(2) やじろべえづくりのこつについて話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">粘土に竹ひごを刺すのは、このくらいがいいよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">前より、粘土を小さくしたら、つり合ったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">右と左の粘土を同じ大きさにしたら倒れなくなったよ。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>	<p>○ おもりの重さが左右同じであるやじろべえがつり合うことに気付いた子どものつぶやきを認める。</p> <p>☆ 比べることの大切さを感じ取らせるために、前と比べたり、左右を比べたりした発言ができた時には、「比べたよマーク」を黒板に貼り、価値付けるようにする。</p>
35	<p>3. 本時学習を振り返り、次時の学習を知る。</p> <p>(1) 本時学習の感想を振り返りカードに書き、発表し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">前より粘土を大きくしたらつり合ったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">同じ大きさの粘土のおもりを使ったら、つり合ったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">うでを前より、ななめにしたらつり合ったよ。</div> </div> <p>(2) 次時の学習について教師の話聞く。</p> <p>○ もっと長い竹ひごを使って、やじろべえを作ってみよう。</p>	<p>○ 本時の活動を振り返るために、振り返りカードに記入し発表の時間をとる。</p> <p>☆ 関係付けること大切さを感じ取らせるために、つり合わせるためにどんな工夫をしたのかが言えた時には「こうしたらこうなるマーク」を黒板に貼り、価値付けるようにする。</p> <p>○ 次時の計画の時に見せる参考作品の一部を見せ、次時への意欲をつなげるようにする。</p>